

付着生物ラーバ情報

マボヤの付着はもうすぐ終了です

1 ラーバ等の出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは野辺地沖で12月12日、21日ともに0.8個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シウリ)

ラーバは奥内沖で12月15日に150.0個体/m³、12月20日に330.0個体/m³、久栗坂沖で12月15日に45.6個体/m³、野辺地沖で12月12日に21.1個体/m³、12月21日に257.8個体/m³見られました(表1)。

(3) マボヤ

ラーバは奥内沖で12月15日に3.3個体/m³、12月20日に5.8個体/m³、久栗坂沖で12月15日に17.8個体/m³、野辺地沖で12月12日、21日ともに0.8個体/m³見られました(表1、図3)。

卵は奥内沖、久栗坂沖で12月15日にそれぞれ3.3個/m³、野辺地沖で12月12日に1.6個/m³、12月21日に2.3個/m³見られました(表1)。

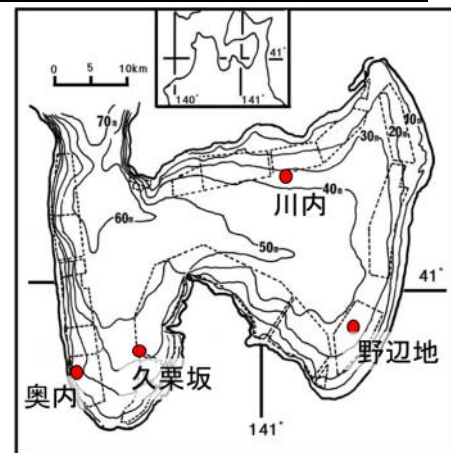


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層の水温は10℃前後で、7℃台に低下している海域もあります。

(1) ユウレイボヤ

奥内沖の累積ラーバ数が8.4個体/m³と多くなっています。未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、親ボヤを減らすために分散作業を早めに完了してください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

(2) ムラサキイガイ

ラーバの出現数が増加していますが、秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

3 天然採苗情報

マボヤの卵とラーバの出現数が増加していますが、マボヤのラーバは水温が9℃を下回ると活性が低下することからもうすぐ付着が終了する見込みです。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ガラボヤ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	マボヤ	
						ラーバ	卵
奥内沖	R5.12.15	0.0	0.0	150.0	0.0	3.3	3.3
	R5.12.20	0.0	0.0	330.0	0.0	5.8	0.0
久栗坂沖	R5.12.15	0.0	0.0	45.6	0.0	17.8	3.3
野辺地沖	R5.12.12	0.8	0.0	21.1	0.0	0.8	1.6
	R5.12.21	0.8	0.0	257.8	0.0	0.8	2.3

※久栗坂沖は実験漁場内

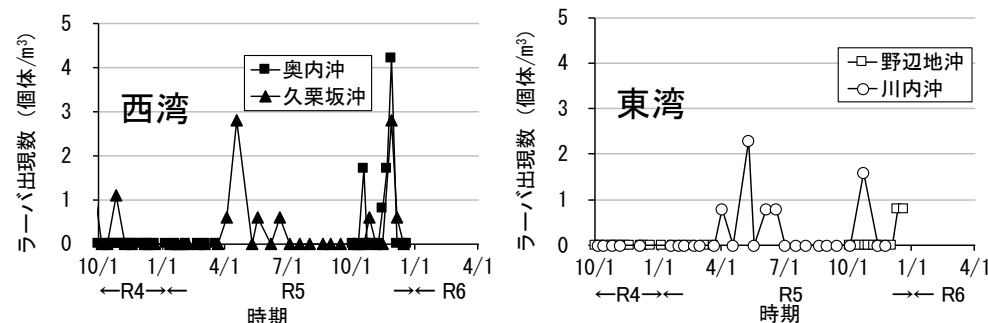


図2 ユウレイボヤ・ムラサキイガイ出現数の推移(令和4年10月～令和5年12月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

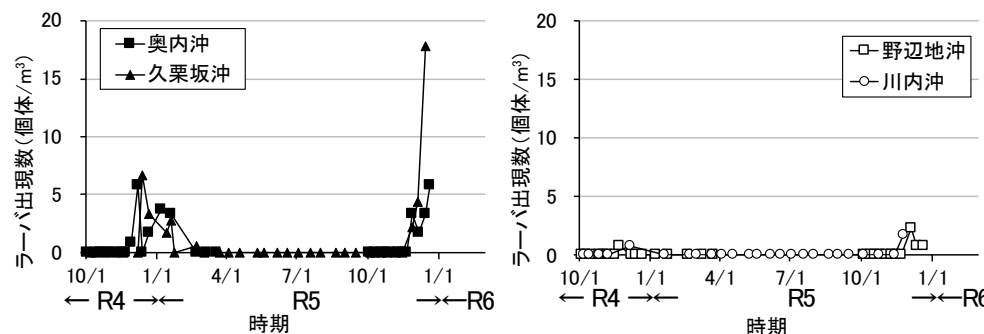


図3 マボヤラーバ出現数の推移(令和4年10月～令和5年12月)

・平成28年の観察開始から現在までの最大値：西湾 26.7個体/m³、東湾 5.0個体/m³

